

2013年 3月 27日

## トヨタ自動車東日本株式会社

トヨタ東日本学園開所式開催

トヨタ自動車東日本株式会社（本社：宮城県黒川郡大衡村中央平1番地 取締役社長：白根 武史）は、2013年3月27日（水）に、トヨタ東日本学園の開所式を開催した。

式典は、宮城県村井知事、トヨタ自動車株式会社（以下トヨタ） 小澤副社長他60名を招き開催し、各教室や実習風景、併設されたPRホールなどの施設を公開した。

冒頭、社長の白根より、「トヨタ東日本学園の取組みを通じて、東北の未来創りに貢献していきたい。そのために人材育成を通じ、東北全体のモノづくり力を高め、地域の皆様と一緒に東北の未来を創る学園としたい」と抱負を述べた。

続けてトヨタ 小澤副社長は、「本学園は、東日本大震災後の2011年7月にトヨタが発表した『モノづくりを通じた復興促進取組み』の一環として、設立を決定した。

中部地区以外では初となる訓練校を東北に設立したことは、東北の地に根を張り、継続的にモノづくりに取り組むトヨタの本気度・意気込みを示しているのご理解いただきたい。

トヨタ固有のモノづくりと東北の伝統技能を融合し、世界に誇れるモノづくりの技能基盤が生み出されていくことを期待する。」とご挨拶された。

また、宮城県 村井知事からは「宮城県・東北6県を代表しての思いとして、東北6県の工業高校新卒者、社会人が一堂に介し学ぶことにより、東北にモノづくりネットワークが広がることを期待する。東北復興にはモノづくり産業の更なる発展が不可欠。そのためにも東北6県が一丸となって、トヨタ東日本学園の人材育成、生産活動を支えながら、一緒に発展し東北復興に繋げたい」とのご祝辞をいただいた。

本学園は、「人づくり」「環境・エネルギー対応」「地域連携」の3つを柱とし「三位一体で未来の力を育てる学園」として、学園教育による人材育成はもちろん、先進的な環境・エネルギーマネジメント機能を備え、生徒や教員の参加型による省エネ・省CO<sub>2</sub>活動を推進し、さらに地域に開かれた学園づくりに取り組んでいく。

学園建物の特徴として、少エネルギー負荷（電力使用量）を目指し、「F-グリッド構想(\*)」と学園を連携させ、エネルギー需給効率を向上させる仕組みづくりにも取り組む(太陽光発電設備、蓄電池の設置等)。また高い耐震性能と自立的なエネルギーシステムを備えることから、衛星電話等を常備し、地域における災害時の情報受発信拠点として学園を活用する。

トヨタ自動車東日本では、トヨタグループのモノづくり競争力を向上させ、地域の復興に貢献するべく、トヨタ東日本学園での人づくりを中心とする活動を通じて、東北におけるモノづくり基盤強化に中長期的に取り組んでいく。

\*）宮城県大衡村の第二仙台北部工業団地で実施検討中の「隣接工場・地域間」における総合的I社\*・マシ\* Xト構想

## 【学園概要】

所在地	トヨタ自動車東日本 本社敷地（宮城県黒川郡大衡村中央平1番地）
建屋	鉄骨2階建て 延床面積：4,500㎡
生徒数	30名（東北地方の工業高校 新卒者を主対象とする）
訓練科	製造設備科

## 【教育コース】学園としての1年間教育（認定職業訓練課程）と既存社員向けの各種技能講座を設定

コース	期間	主な内容
長期	1年	設備制御、保全技術を主体に技能・知識・心身を鍛え、将来職場の中核者を目指す教育
中期	2ヶ月	保全技術者として必要な技能（電気・機械）を幅広く、体系的に学ぶ教育
短期	1週間	保全技術者に必要な技能を個々のレベルに応じて選択受講する教育 溶接、機械構造、PLC（Programmable Logic Controller）等

以上